

SRI アナリストが歩けば…

株式会社グッドバンカー
リサーチチーム

2018 年は成年です。

「犬も歩けば棒にあたる」ということわざには良い意味と悪い意味の両方があります。何か行動しようとして、思いがけない災難に遭うことにも例えられますが、また、一歩外に踏み出したことで得られた幸運を語る時にも使われます。

企業の ESG を評価する SRI アナリストの場合は、世界中どこへでも出かけて行って、いろいろな人や景色やモノに出会い、視野を広げることがそのまま ESG 評価の質を高め、競争力につながります。そのため、当社では 1998 年の創立以来、アナリストには年一回、二週間の連続休暇の取得を義務づけています。

海外での休暇も可能にすることで、アナリストがグローバルな視野を持つと共に、そこで出会った人たちとのネットワークを形成してほしいからです。

また、海外出張に際して個人的な休暇をプラスして、さらに視野を広げようとすることも、会社として推奨していることです。例えば、北京での国際会議に出席したアナリストが、そこに休暇をプラスしてチベットまで足を延ばしたようなケースです。

創立以来 20 年、役職員一同出歩いたおかげで、現在世界 32 ヶ国、日本国内 47 都道府県に人的ネットワークがあります。

また、東京本社以外に長野、鹿児島にはリモートオフィスがあり、どこでも業務が遂行できる体制にあります。地方紙でたまたま見つけた企業に関心を持ち、面談にこぎつけて、ESG の観点からの投資妙味を見つけて運用者に推薦することや、SRI や ESG 投資家の存在を知らなかった地方の企業に、効果的な IR やディスクロージャーについてアドバイスすることもあります。

世界の様々な地域での日本企業の存在感、レピュテーション、そして、その評判のよってきたるところは何かなど、アナリストが出歩くことで収集できた貴重な情報の蓄積が、グッドバンカー社の ESG 評価のノウハウになります。

「SRI アナリストが歩けば ESG に当たる」と言えるのではないのでしょうか。